

第1回 新型コロナウイルスワクチン接種体制整備連絡会議 概要

1 日 時：令和3年2月18日（木） 16：30～17：25

2 場 所：県庁西庁舎3階 301会議室

3 出席者

市 町 村 今井市長会社会環境部長（岡谷市長）、藤巻町村会社会環境部会長（軽井沢町長）

医療関係 若林県医師会総務理事、井口県歯科医師会専務理事、石塚県薬剤師会専務理事

事 業 者 島県医薬品卸協同組合理事長

長 野 県 小岩副知事

竹内危機管理部長、伊藤企画振興部長、土屋健康福祉部長、林産業労働部長

4 概 要

(1) 開 会

(2) あいさつ（小岩副知事）

- 本日はお集まりいただきありがとうございます。
- 14日にファイザーの新型コロナのワクチンが承認され、昨日17日に初めて先行接種が行われた。
- 信州上田医療センターでリハーサルが行われ、いよいよ接種に向けて動き始めた。
- 進め方としては、医療従事者から始まり、高齢者、基礎疾患を持つ方と進んでいく。
- スケジュールについてはまだまだ流動的。
- ワクチン接種が円滑かつ効率的に進められるよう関係者の皆様に意識合わせ、課題の共有をさせていただきながら進めていくことが重要と考える。
- 関係者の皆様には、ワクチン接種にかかる体制づくりについてそれぞれの組織、それぞれの立場の中で取り組んでいただくことになる。綿密な情報交換、課題の共有が必要。
- 今後、様々な不確定要素、状況の変化、不測の事態が起こると思うが、速やかに対応できるよう体制を整えておきたいと考える。そのような観点からこの連絡会議を設置。
- 連絡会議については、本庁だけでなく、地方部にも設置する。地方部との連携をとりながら進めたい。
- ワクチン接種は大きなプロジェクト。是非とも成功させたい。

(3) 協議事項

① 新型コロナウイルスワクチン接種の推進体制と現状について

【資料1～6に沿って事務局より説明】

<質疑>

（今井岡谷市長）

コールセンターについて、県が設置するということか。

（山邊室長）

市町村でも設置する準備を進めているが、県でも相談体制を整えるために設置の準備をしており、棲み分けについては、市町村が一般的な問合せ、県が専門的な問合せを担当する。

（今井岡谷市長）

コールセンターを設置しない市町村もあると思うが、県のコールセンターで予約等を受け付けるという訳ではなく、副反応等の問合せ対応等ということでしょうか。

(山邊室長)

そのとおり。

(島県医薬品卸協同組合理事長)

資料5について、集団接種のみが28市町村、個別接種のみが4市町村、集団接種と個別接種を併用が45市町村となっているが、ファイザーについては拠点となる30箇所にワクチンが送られてくる。個別接種箇所へは直接配送されない。そこでの連携はどうなっているか。

(中曽根補佐)

資料5の30箇所は医療従事者用の施設。今後、6月末までに県内に合計204台のディープフリーザーが設置される。そこから個別接種箇所いわゆる連携型の施設への配送は、市町村もしくは業者に委託することになる。

(島県医薬品卸協同組合理事長)

6月末で204台が設置ということだが、すべてにファイザー社が直送するというのでよいか。

(中曽根補佐)

ファイザー社のワクチンを希望すればファイザー社から直送される。

(藤巻軽井沢町長)

報道ではワクチンの話ばかり。不明な点が多い。町民にしっかり情報が伝わっているか疑問。ワクチンについて何か周知の方法を考えているか。

(山邊室長)

ワクチンの情報提供が必要。速やかに情報提供をしていくが、HPのコロナ特設ページで周知していく。

(藤巻軽井沢町長)

ワクチンの接種と日常の診療を続けていかなければならないが、医療従事者の応援体制をお願いしたい。それぞれ事情があると思うので柔軟な対応をお願いしたい。

(今井岡谷市長)

医師会の協力をいただかないと進まない事業。医師会とどのように進めればよいかこれからも話をしていかなければならない。人口の6割位が接種をしないと効果がないといわれている。市町村を代表する者としては、是非多くの方に接種をしていただき、早く長野県全体が安全な地域になることが大切。県として情報の発信に力を入れて欲しい。

(山邊室長)

県としても情報発信をするが、市町村も含めALL長野で発信していかなければならない。

② 意見交換

(小岩副知事)

本日は第1回の会議。顔合わせの意味もある。資料も基本的な内容。

今後、作業を進める中で出てくる論点について、具体的に論点を絞って議論したい。

情報もどんどん出てくるので、随時アップデートしながら進めていきたい。

(若林医師会総務理事)

松川村から参加している。

一番心配しているのはアナフィラキシーショックを起こしたときの対応。県全体の話になるが、県として何かフローみたいなものを考えているか、市町村で準備がバラバラになってもいけないので県でたたき台のようなものを考えて欲しい。

ショックを起こしたときのフローを考えておく。大きな病院では施設があるのでいいが、体育館や保健センターのようなところでは、十分な用意ができない。地域ごとに適した体制を考えて接種するようにしていかなければならない。

ディープフリーザーからの配送についてあるところでは取りに行く、あるところでは業者が持って行くというようにやり方が色々あるようだが、市町村も責任をもって取り組むことが必要。

予防接種についての補助について知りたい。

(山邊室長)

アナフィラキシーの対応について、国が示した資料では通常のインフルエンザの予防接種ではない。接種後に15分から30分間の様子を見る場所を設け、そこに人員を配置することになっている。医療機関に掛かる場合もあると思うが、まずは接種した医師、かかりつけ医に相談することになるが、さらなる対応が必要な場合は専門医につなげていく体制を考えていく。

市町村と医師会の協議について、現時点での77市町村の考えを示した。それぞれの地域で事情を抱えていると思うが、一番いい方法を医師会と協議して進めて欲しいと考えている。

輸送については、まだまだ準備が整っていないところがある。県として課題を抽出し、フォローしていきたいと考えている。

補助について、予防接種にかかる経費については国の方で手当にすることになっている。

(土屋健康福祉部長)

若林総務理事の意見について、山邊室長が答えたとおりで、少し思うところがあるので発言したい。まず、藤巻町長から話のあった、市町村によって医療従事者に限りがあるということの対応で、第一義的には医療圏、広域の中で保健所が中心となって郡市医師会の協力を得て調整をしていくということになるかと思う。医療圏によっても違いがあるので調整が必要になるかどうか県としてもしっかりと把握し必要とあれば県として対応していく。

場所の確保も大事だが、人の確保も大事。人の確保がままならないまま接種を行うことは絶対にあってはならない。アナフィラキシーについて、諸外国のデータでは、20万回に1回とあるが、20万回に1回にあっても起こりうるということを前提にして体制を整えておく必要がある。なんとなく早く早くという雰囲気があるが、せかされて拙速になるということなく安全が大事という思いを皆様と共有させていただき作業を進めることが大事。

(小岩副知事)

アナフィラキシーは起きることが前提で、その時にどう対応するかを考えた上ですめるといえることになると思うが、起きることを防ごうということではないという認識を補足したい。

知事と市町村長との意見交換でも発言しているが、県民がしっかりと落ち着いた中でワクチン接種ができる環境をつくることが大事。

(県歯科医師会 井口専務理事)

ワクチン接種体制という中で、長野県歯科医師会は優先接種を受けさせていただくという立場。県歯科医師会は約5,000名が希望しているので、そのリストは完成している。

20郡市の会があり、各圏域にまたがっているので、圏域によって接種体制については柔軟に対応いただく。10圏域の中にある歯科医師会と連絡調整をとってスムーズな接種ができるように支援をいただきたい。

県歯科医師会としても協力できることは協力していきたい。

(県薬剤師会 石塚専務理事)

新型コロナウイルスワクチンの有効性・安全性の広報についても、薬局の窓口等を活用していただきたい。

新型コロナウイルスワクチン接種における会場の人員についても薬剤師会でも出来る限り協力していきたい。

(県医薬品卸協同組合 島理事長)

医薬品卸としては、針・シリンジの供給ということでワクチン接種に関わるのでしっかりと役割を果たしていく。

ワクチンについて、まずはファイザー社のものが使われるが、非常に温度管理が難しい。

針・シリンジの供給を受け持つ中で、ワクチンがどのように供給されるかはっきり分らないとこちらの供給計画も立てられない。情報提供をお願いしたい。

3種類のワクチンが打たれるということになるが、ファイザー社のものは卸は扱わないが、それ以外は個別接種を前提に卸が供給体制を整えている。それ以外のワクチンはまだ承認が取れていないが、承認が下りたときにどのように展開するか計画を持たないといけない。ここでも事前情報等の共有をお願いしたい。

(山邊室長)

情報についてはしっかりと共有していきたい。皆様がお持ちの情報についても色々な機会を提供いただきたい。

(藤巻軽井沢町長)

副知事の話のとおりで、ミスは起こるものと想定して進めなければならない。今回のワクチンでも6回分とっていたものが5回分ということが国レベルでもあった。そのようなことがないようにしなければならない。

(土屋健康福祉部長)

シリンジの話のように直前で話が変わると接種計画もだめになる。6回打てるシリンジの確保について、事務局もしくは参加いただいている方で何か情報を持っていないか。

(山邊室長)

報道にある程度の情報しか持っていない。

(県医薬品卸協同組合 島理事長)

注射針・シリンジのリストはもらっているが、6回打てるものがどのくらいあるかなどは分からない。

(小岩副知事)

初回から色々な意見・見解をいただいて良かった。

会議の場だけでなく、普段の事務から情報共有がスムーズにできる体制をつくることが重要。今日はそのためのスタートとなった。

常に情報共有、課題を共有して進めていかなければならない。

ワンチームで進めていきたい。

(4) 閉会

【終了 17 : 25】